

イスラマバード日本人学校

(在パキスタン日本国大使館附属イスラマバード日本人学校)

平成 20～22 年度イスラマバード日本人学校派遣

現 北見市立北中学校 嶋 山 稔

1. パキスタンの概要

(1) 地理・歴史

南アジアに位置し、隣国インド・中国・アフガニスタン・イランと国境を接します。4つの州と2つの連邦直轄地区に分かれ、最大の人口を有するのはカラチ（約933万人）。首都はイスラマバード。

北部は、山岳地帯で7～8000m級の山が連なり、その雄大な風景は、世界へ誇れるパキスタンの宝です。それら大山脈の氷河に源を発する大河インダスが、国の中心を貫き、豊かな大地を作っています。しかし、実際には多くの土地は雨の少ない乾燥気候で、砂漠もあります。南部は、アラビア海に面し、雨は少ないものの、蒸し暑い気候です。

1947年8月14日にイギリス領インド帝国より独立。独立当時は、現在の

のバングラデシュ（東パキスタン）も同じ国家で、インドを挟んで東西に1800kmも離れた飛び地国家でした。1971年3月、第3次印パ戦争の末、バングラデシュと分離。

独立からわずか60年ほどの新しい国ですが、モヘンジョ・ダロに代表されるように、インダス川流域の歴史はとても古いものがあります。歴史の教科書で、インドという名前で載っている部分の多くに、現在のパキスタンの歴史が含まれています。仏教美術、仏像のふるさと「ガンダーラ」もこの国の歴史の一部です。

(2) 言語

国語はウルドゥー語。ウルドゥー語は基本的にはインドのヒンドゥー語と源を同じにしますが、ペルシャ・アラビア文字を使う点、ペルシャ・アラビア語の語彙を多く取り入れている点の違いがあります。この国は他民族国家のため、各地方で使われている言語は異なりますが、パキスタンの国語としてウルドゥー語が広く使用されています。

かつてイギリスに統治されていたこともあり、英語も公用語となっています。都市部では英語が広く通用しますが、地方に行くとウルドゥー語ができないと、コミュニケーションをとるのが難しいことも多いです。学校の現地スタッフでも、英語が流ちょうに話せる人、片言しか話せない人、全く話せない人がいます。

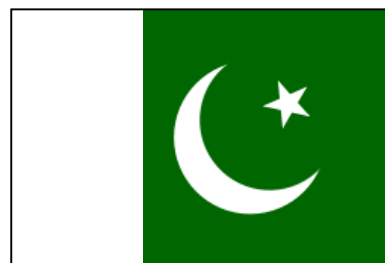
国として言語に関わる大きな問題は識字率であり、53%前後と言われています。就学率との関係が大きいですが、この率はアジアの中でも最も低い方です。



ータ～

ン・イスラム共和国
00k m² (日本の約2倍)
4時間遅れ
千万人
一語、英語
教(97%)
バード(人口75万人)
3月14日(イギリスから独立)
3月(バングラデシュと分離)

旗



数する色で、竿側に白を
スラム教以外の少数派の
と中央には進歩を示す三
す星があしらわれてい
組み合わせは、トルコの
家の国旗でしばしば用
る。

（３） 宗教と習慣

そもそも、パキスタンの建国の理念はイスラム教によるもので、国民の97%はイスラム教徒です。そのイスラム教の様々な習慣が、日常生活に大きく影響しています。豚肉が食べられないとか、アルコール禁止などは、日本でも知られている習慣です。さらに、1日5回のお祈りや、年に1度の断食月（ラマザン）もよく知られていることですが、ほとんどのイスラム教徒がこれらを忠実に実行しています。

また、イスラマバードやカラチのような都会と田舎の畑道以外で、女性を見かける機会はほとんどありませんし、見かけても、頭から布をかぶっていたり、目の部分しか肌が見えないブルカを着ています。ちなみに、ブルカの下は、シャルワール・カミーズ（日本人は、略して「シャル・カミ」と呼んでいる。）という民族服が一般的。シャルワールはだぶだぶのズボンでウエストまわりが3m位あるものをひもでしめます。カミーズは上着で、膝丈ぐらいまでである長い服。ふつう、男性も、シャルワール・カミーズを着ます。パキスタンにおける正装でもあります。

イスラム教の男性は、女性に対して、極度の禁欲的生活を強いられていますから、外国人女性の姿には、好奇の目が向けられることが多くあります。それと、関係があるかどうかは分かりませんが、男性同士が仲良く手をつないで歩く姿がよく見られるのも、この国の習慣でしょうか。また、イスラムの教えの中に4人まで妻をめとることができるというのがありますが、実際に3人以上の妻を持っている人もいます。

ただ、モスク内でお祈りをしているのに人にカメラを向けたり、お祈りをしている人の前に立ったり、知らない女性にカメラを向けたり、女性の手を握ったりということは、してはいけないことです。最低限のマナーを知らないと、トラブルを起こすこととなります。



（４） 経済・産業

基本的には、自由主義経済ですが、故ズルフィカール・アリー・ブットー首相時代の社会主義的な政治の影響もあるのか、競争原理はあまりありません。国内総生産における業種別の比率は、農林水産業25%、製造業18%、卸・小売り16%、運輸・通信11%、サービス8%、行政・防衛8%となっています。また、産業別の就業人口は、農業48%、製造業13%、卸・小売り・飲食13%、公共・個人サービス13%です。発表されている失業率は3%と低いのですが、数字に表れない部分もたくさんあるようです。製造業の中心は、繊維、食品加工、農産物加工処理などの軽工業で、重化学工業の鉄鋼、肥料、セメント、自動車の産業も成長しつつあります。

日本へは、綿糸、綿花、エビ、皮などを輸出し、日本からは、自動車、繊維機械、電気機械、化学品などを輸入しています。貿易相手国の金額順でも、輸出先ではアメリカの次、輸入先では一番です。このように、日本とパキスタンとの経済的なつながりは大きいものがあります。

パキスタン経済の課題としては、財政赤字の削減、インフレの抑制、民間投資の促進、輸出の振興、外資の導入、また、経済の中心であるカラチの治安不安の解消など多くの問題を抱えています。

（５） 首都イスラマバードの風土・自然

イスラマバード（ペルシャ語・ウルドゥー語でイスラム教の都という意味）はパキスタンの新しい首都で、英国統治時代からの軍都であるラーワルピンディーの北西10kmに位置し、人口は約75万人の町です。自然の原野に新しく造られた人工計画都市ですので、町並みは整然としています。政治機能を集約化し、各国の大使館も多く、治安面、生活面、緑の多さなど、他のパキスタンの町とは趣をずいぶん異にしています。

町のほぼ北側にマルガラ丘陵が東西にのび、山腹のダーマネ・コー展望台からは、イスラマバードのすばらしい眺めが楽しめ、遠くはポーターハール平原が望めます。北東方向には避暑地で名高いマリーの山並みが広がり、冬には同山頂は白い帽子をかぶり、イスラマバードの人々の目を楽しませてくれます。



イスラマバードは、緯度的には日本の北九州市にあたります。モンスーンの時期を除いては、概して乾燥しています。ただ、気温は5月・6月の2ヶ月には、日中42度～45度にもなります。しかし、空気が乾燥しているためあまり汗はかかず、日本の蒸し暑さに比べると、むしろ過ごしやすいのかもしれませんが。7月～8月には、モンスーンで夜間の雨が多くなります。湿気があり日本の夏のようにです。冬は日中快適ですが、朝晩はかなり冷え込みストーブが必要となります。各家庭には都市ガスの元栓がついていて、ガスストーブを使っています。



2. 治安に関すること

(1) パキスタン全体の現状

現在、パキスタン全体の治安はあまりよくありません。爆弾テロが頻発している時期もあります。ここ何年かの大きな事件は、次の通りです。

- ・ 2007年7月 ラールマスジット事件
- ・ 11月 非常事態宣言
- ・ 12月 ブット元首相暗殺
- ・ 2008年3月 イスラマバードのイタリアンレストランで爆破事件
- ・ 6月 デンマーク大使館で爆破事件
- ・ 6月13日 最高裁判事の復職を求めるデモ
- ・ 7月 イスラマバードのメロディマーケット付近で爆破事件
- ・ 9月 イスラマバードのマリオットホテルで爆破事件
- ・ 2009年4月4日 イスラマバードE7地区で警察を襲撃した自爆テロ事件
- ・ 6月 イスラマバードF8地区で警察を襲撃した自爆テロ事件
- ・ 10月 治安の悪化

これ以外にも、各地で爆弾事件・誘拐事件・強盗事件・デモによる衝突が報告されています。カシミール地方を巡るインドとの関係も核実験以後エスカレートしましたが、現在、少しずつ関係はよくなってきています。また、一部には、アメリカ等のアフガンへの爆撃に対して強く反感を持っているものもあります。さらに宗教問題に端を発する突発的な暴動が起きることもあります。

(2) イスラマバードの現状

イスラマバードは、パキスタンの中では比較的安全といわれてきましたが、実際には強盗事件が頻発しています。治安情勢は、予断を許しません。

2007年にはラールマスジットの事件があり、その報復テロが各地で起こっています。2009年に入っても、市内での爆破事件が頻発しています。2010年は比較的平穏な状態を保っていました。



(3) 対策

爆弾事件のようなものは、なかなか防ぎようがありませんが、ストやデモのときはあらかじめ情報がありますので、出かけることを控えたり、その集会が予定されているところには近づかないようにしたりしていました。

国内旅行は年々難しくなっています。近郊の町を除き、イスラマバードを離れる場合には、大使館を通じ、パキスタン外務省に許可を申請します。許可がおりない地域が増えてきました。

日本人家庭では、通常警備会社と24時間契約を結び、警備員を雇っています。



3. 現地の学校教育事情

(1) 教育制度

パキスタンの学年と日本の学年を比較したのが、下の表です。

Age(歳)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
Pakistan	小1	小2	小3	小4	小5	中1	中2	中3	高校前期		高校後期		
Japan		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3

パキスタンでは、日本より1年早く、5歳が小学校入学です。しかし、住民登録がきちんとされていないので、実情はあやしいです。小学校5年間、中学校3年間、さらに上級学校へと進んでいきますが、この国では進級試験があり、いわゆる「落第」もありえます。異年齢の生徒が一緒のクラスにいることも少なくありません。

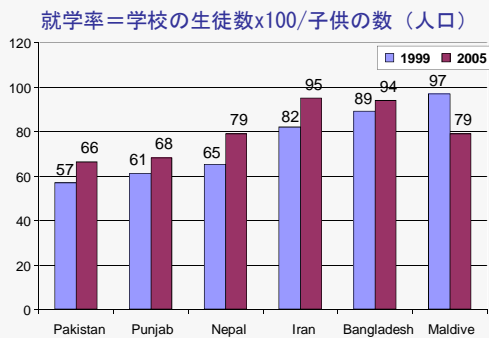
(2) 就学率

初等教育の就学率は伸びてきていますが、まだ60%台です。これには様々な原因があります。

- ・家庭が経済的に苦しい。(働き手として早い時期から子どもに就労させている)
- ・文化、宗教的背景…特に女性には十分な教育を受けさせない傾向が強い。
- ・落第があることも大きな理由で、途中でドロップアウトしていく生徒が多い。
- ・政府として、教育に力を入れていない。

この就学率ですので、英語教育どころか、国語のウルドゥー語すら読み書きできない人がかなり存在するという事は、大きな問題です。

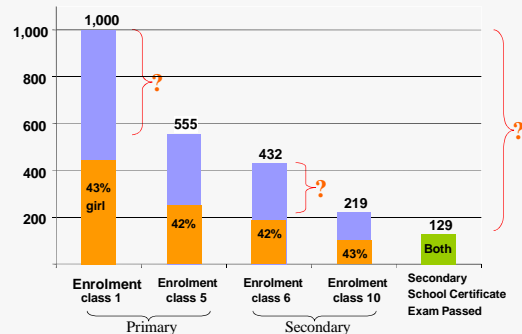
1a) 初等教育の就学率の伸びている！



*Source: EFA MDA Country Report 2008, UNESCO Global Monitoring Report 2008

3b) 生徒数の変化 パキスタン

1年生に1000人いたとすると、



Source: NEC 2006 and Pakistan Education Statistics 04-05

右上のグラフから、途中でドロップアウトする児童生徒がいかに多いかがわかります。

(3) 公立学校と私立学校

パキスタンでは、富裕層と貧困層の差が大きく、富裕層は初等教育から私立学校に通わせ、高等教育は海外へ留学、といったコースをたどることが多いようです。公立学校の教育の質はそれだけ低いと言えます。公立学校は、施設が十分整っていないばかりか、教員も満足にそろえられないこともよくあることです。児童生徒の数が定員を上回る学校も多く、2部制(午前の部、午後の部)をとることで対応しています。

私立学校の様子





公立学校の様子



私立学校の時間割一例(Grade 6)

Day/Time	08:00~ 08:40	08:40~ 09:20	09:20~ 10:00	10:00~ 10:40	10:40~ 11:00	11:00~ 11:40	11:40~ 12:20	12:20~ 13:00	13:00~ 13:40
Mon	Eng	Eng	Hist	Games	B R E A K	Math	Sci	Urudu	Urdu
Tue	Eng	Math	R.I	Urdu		Geo	Geo	Sci	Sci
Wed	Eng	Eng	Hist	Hist		Math	Games	Urdu	Urdu
Thu	Eng	R.I	Comp	Comp		Math	Urudu	Sci	H.ED
Fri	Geo	Eng	Sci	Math		Urdu	Math	Math	

4. イスラマバード日本人学校について

英語名の Islamabad Japanese School から、通称「IJS」と呼んでいます。1975年4月に補習授業校として開校し、1987年4月に全日制的日本人学校としてスタートしました。1996年1月に新校舎が完成、現在に至ります。



(1) 児童生徒について

ここ数年は、20名前後で推移しています。平成22年度末の在籍数は以下の通りです。

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子	2	0	2	0	1	1	1	2	1	10
女子	3	0	3	2	0	2	1	1	1	13
計	5	0	5	2	1	3	2	3	2	23

多くの児童生徒が首都圏の出身で、日本以外の国から異動してきた児童もいました。日本での生活経験が少ない児童生徒も数名いましたが、そういった子どもは日本語の力が劣る傾向にあります。したがって日本語の学習は、極めて重要でした。

登下校はほとんどの児童生徒はスクールバスを利用します。その際にお弁当を持参しますが、後から届ける家庭もありました。

(2) 教職員

- ・文部科学省派遣教員…校長を含め6名（H20年度までは7名）
- ・現地採用教員…数名（常勤、非常勤）

- ・現地スタッフ…7名（事務員、ベアラー、ドライバー3名、マリー、スーパー）

（3）教育課程

- ・年間授業日数…195日以上を設定
- ・学期制…3学期制
- ・週時数…小1と小2は27時間。小3以上は31時間。（H22年度）

（4）特色ある教育

①英会話

英語教育に対する保護者の要求は極めて高い一方、パキスタンは英語を公用語としてはいるものの、子どもたちが街に出歩くことはほとんどなく、日常的に英語を使用する場面はほとんどありません。

英会話の授業はすべての学年で週2回行っています。講師はパキスタン人で、ネイティブスピーカーではありませんが、流ちょうに英語を話します。子どもたちの英語力はネイティブに近い子もいれば、日本から来たばかりで初めて学ぶ子もいます。そのため、クラスは習熟度別で編成しています。後述する、IJSデーでは現地校との交流を行っており、その取り組みも英会話の授業とリンクしています。



②現地校訪問

毎年5月に行う全校合宿の行事で、現地校訪問をスケジュールに入れています。訪問する学校は、毎年市内の私立学校にお願いをしています。内容は現地校の授業に参加させてもらうのが中心ですが、すべて英語で進められる授業を実際に受けるのは、貴重な体験となっています。また私立学校に通う現地の児童生徒の英語力にも驚かされます。

③IJSデー

現地校（3～4校）の児童生徒を招待して行うイスラマバード日本人学校での最大の行事です。10月末のこの行事のため、子どもたちは2ヶ月前から取り組みを始めます。内容は前半が現地校の児童生徒との交流会で、後半が学芸会となっています。

<交流会>

招待校別のグループに分かれ、IJSの子どもたちが日本文化の紹介を中心に遊びながら交流を深めます。子どもたち自身が英語を使って進行していくので、英会話の授業で十分な準備をしておきます。剣玉、コマ回し、福笑い、紙風船、竹とんぼ、折り紙等、日本伝統の遊びをいっしょにやったり、日本に関するクイズを出したり、簡単な日本語を紹介したり、内容も子どもたちが考えて準備します。



< インターナショナル学芸会 >

場所を体育館に移し、後半は学芸会です。司会は日本語と英語で IJS の子どもたちが行います。招待校にも 5 分程度の発表をしてもらいます。IJS は日本の民舞と和太鼓を披露するのが恒例となっています。そして閉会セレモニーでは、参加者した児童生徒全員で英語の歌を歌います。過去 3 年は、以下の発表を行いました。

	～民舞～	～和太鼓～
・ H20 年度	エイサー	豊年太鼓
・ H21 年度	ソーラン節	子ども囃子
・ H22 年度	花笠踊り、みかぐら	龍神太鼓、黒潮囃子



④ フィールドワーク

現地理教育の一環として、年に数回学校の外へ出て見学や体験を行うのがこのフィールドワークです。過去には、近隣の世界遺産見学（イスラマバード近郊に 2 カ所世界遺産がある）、オレンジ狩り、博物館見学、などを行ってききましたが、私が勤務した 3 年間は治安悪化のため外へ出での学習が制限され、現地理の活動を行うのが厳しい状況でした。

（５）安全管理

パキスタンのような治安がおもわしくない国では、安全に学校に通うことができ、そして安心して学校生活を送れるようにすることが最も求められることです。学校は大使館の建ち並ぶ外交団地区にありましたが、それでも 24 時間警備員を配置し児童生徒の安全確保を図っていました。校舎内にも非常時に対応するための工夫がされており、各階には万が一のために逃げ込む避難室が必ずあります。通常、扉は木製なのですが、避難室だけは鉄製になっており、中には職員室と連絡をとるためのトランシーバーがおかれ、非常用のミネラルウォーターも常備されています。

スクールバスは 2 台保有していました。無線機が備え付けられ、登下校中は職員室にいる担当教員がバスに乗車している生徒と無線でやりとりをしながらバスの運行状況を把握します。また、この無線は大使館の警備担当部署でも聞こえるようになっており、非常時にはすぐに協力をいただける体制になっています。

避難訓練は年に 5 回行っていました。ほとんどは日本ではありえないものですが、子どもたちも学校のスタッフも万が一に備え、真剣に取り組みます。内容は以下の通りです。

- ・ スクールバス襲撃
- ・ 暴徒校内進入
- ・ 校内爆破予告
- ・ スクールバス故障
- ・ 地震発生



5. 終わりに

イスラマバード日本人学校での 3 年間の勤務を終えました。あらためて感じることは、日本人学校で学ぶ子どもたちは自分の意志でそこへ来たわけではないということです。しかし、子どもたちはどんな状況下でも一生懸命に学ぼうとしています。限られた学習環境で、そういった子どもたちの教育をする派遣教員の使命はとても大きいと思います。これまでの経験を生かしつつ、私自身も教職員で知恵を出し合って勤務してきました。初めての小学生の授業も、他の先生にアドバイスをいただきながら、一生懸命に取り組んできました。とにかく「人」も「物」も限られた在外教育施設です。そんな中で前向きに勤務することが最も求められる資質ではないかと感じています。

最後に派遣に際しまして、様々なかたちで支援いただいた方々に深く感謝いたします。